

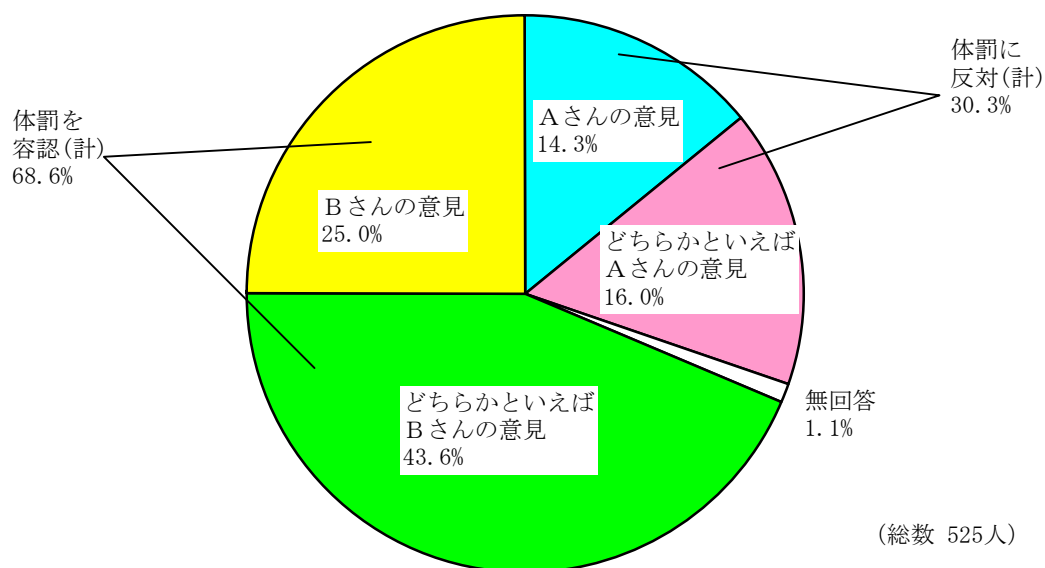
第4章 子どもの人権について

1. 学校での体罰

問8. 学校での体罰について、AさんとBさんの2人の意見が次のように分かれました。あなたの考えはどちらに近いですか。(記入は1つ)

[Aさんの意見]=教師はいかなる理由があろうとも、生徒・児童に体罰を加えるべきでない。

[Bさんの意見]=教育的見地からなら、教師が生徒・児童に体罰を加えることがあってもよい。



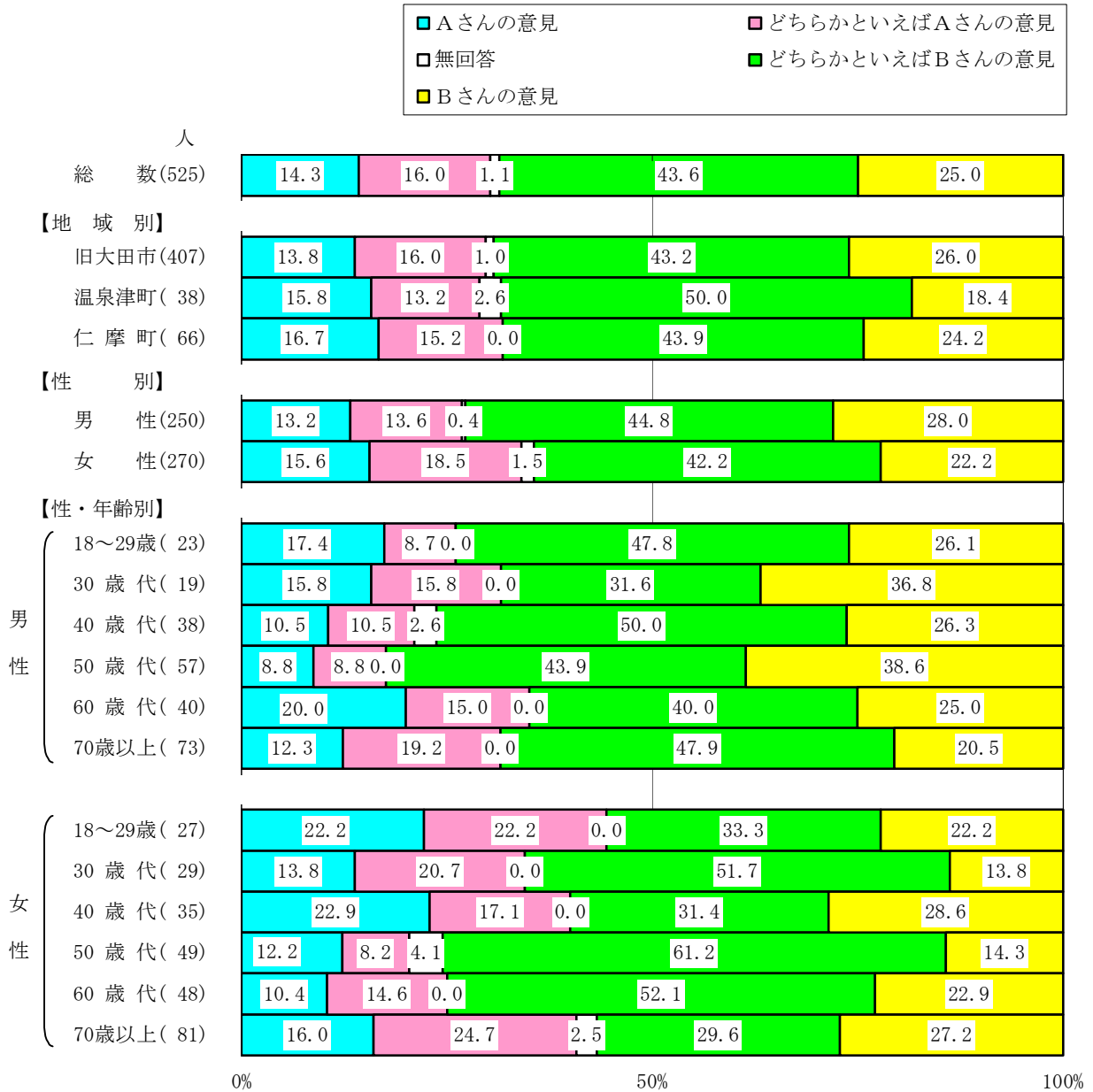
■ 「学校での体罰」反対は3割

学校での体罰について『いかなる理由があろうとも体罰を加えるべきでない』という「Aさんの意見」の支持者は14.3% (県14.9%)、「どちらかといえばAさんの意見」16.0% (県20.9%)で、体罰に反対するAさんを支持する割合は30.3% (県35.8%)である。一方、『教育的見地からなら、体罰を加えることがあってもよい』という「Bさんの意見」の支持者は25.0% (県14.5%)、「どちらかといえばBさんの意見」43.6% (県45.5%)で、教育的見地からなら体罰を加えることがあってもよいとする容認者は68.6% (県60%)となっている。

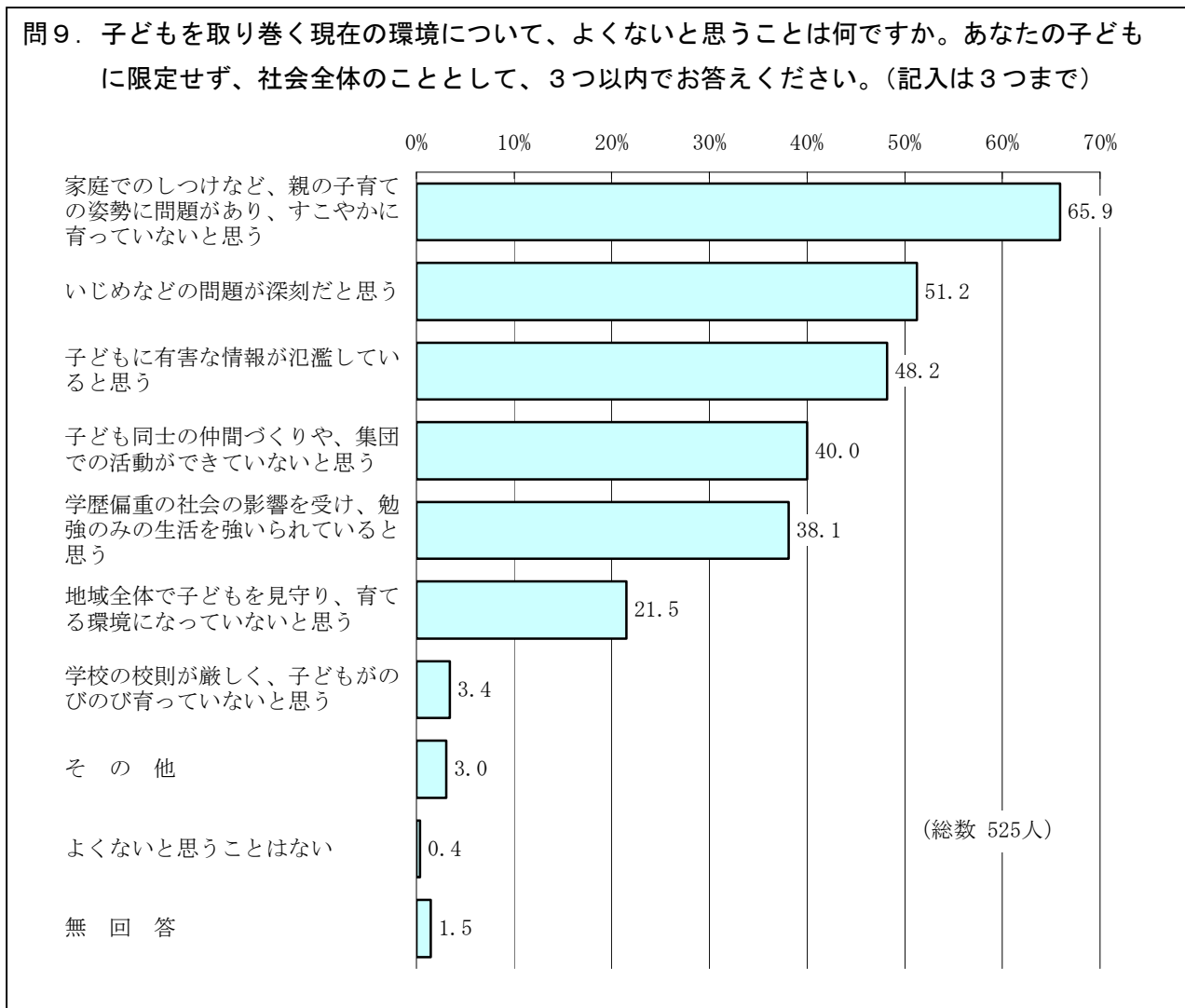
性別で見ると、男性より女性に体罰に反対意見が多くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも50歳代で体罰を容認の意見が多くなっている。

図 4-1 学校での体罰



2. 子どもを取り巻く環境でよくないと思うもの



■ 「家庭のしつけ、親の子育てに問題あり」が6割半

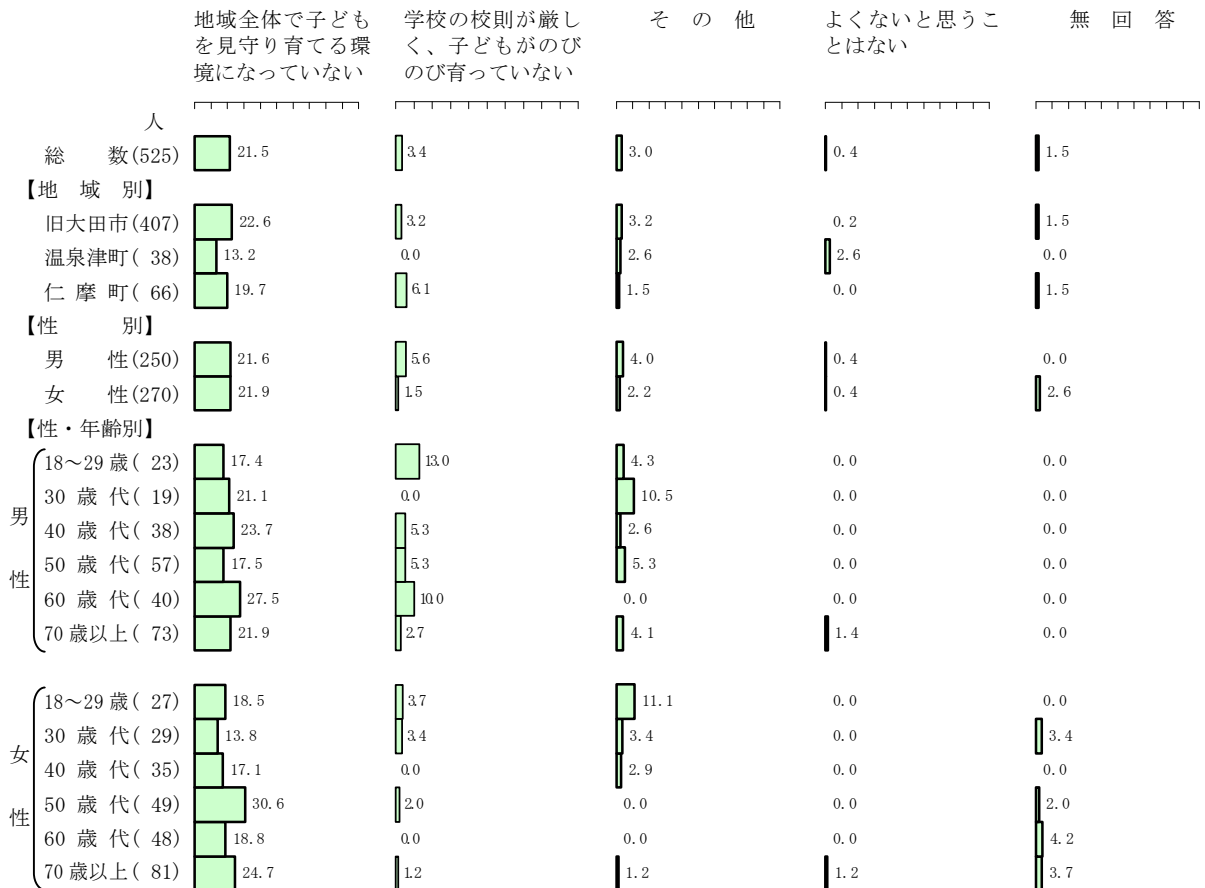
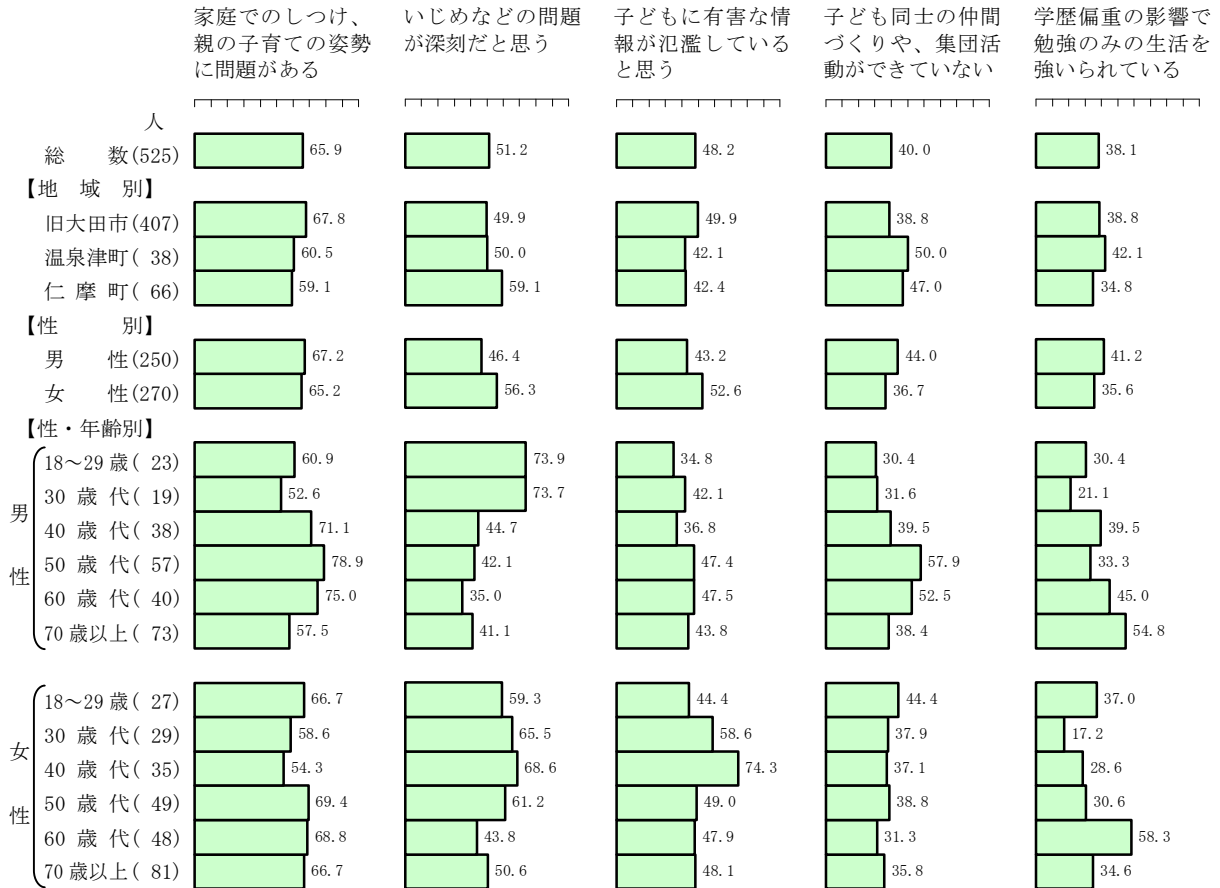
子どもを取り巻く環境でよくないと思うこととしては「家庭でのしつけなど、親の子育ての姿勢に問題があり、すこやかに育っていないと思う」が 65.9% (県 56.4%)、次いで、「いじめなどの問題が深刻だと思う」が 51.2% (県 38.4%)、「子どもに有害な情報が氾濫していると思う」48.2% (県 44.3%)、「子ども同士の仲間づくりや、集団での活動ができていないと思う」40.0% (県 29.5%) となっている。

地域別にみると、「家庭でのしつけなど、親の子育ての姿勢に問題があり、すこやかに育っていないと思う」は旧大田市 (67.8%) で多く、仁摩町 (59.1%) ではやや少ない。

性別では、男女とも「家庭でのしつけなど、親の子育ての姿勢に問題があり、すこやかに育っていないと思う」が1位、「いじめなどの問題が深刻だと思う」が2位にあげられており、男女での差はほぼみられない。

性・年齢別にみると、「家庭でのしつけなど、親の子育ての姿勢に問題があり、すこやかに育っていないと思う」は男女とも50歳代が一番多く、男性の40歳代から60歳代で7割超となっている。また、「いじめなどの問題が深刻だと思う」は、男性の30歳以下で7割超となっている。

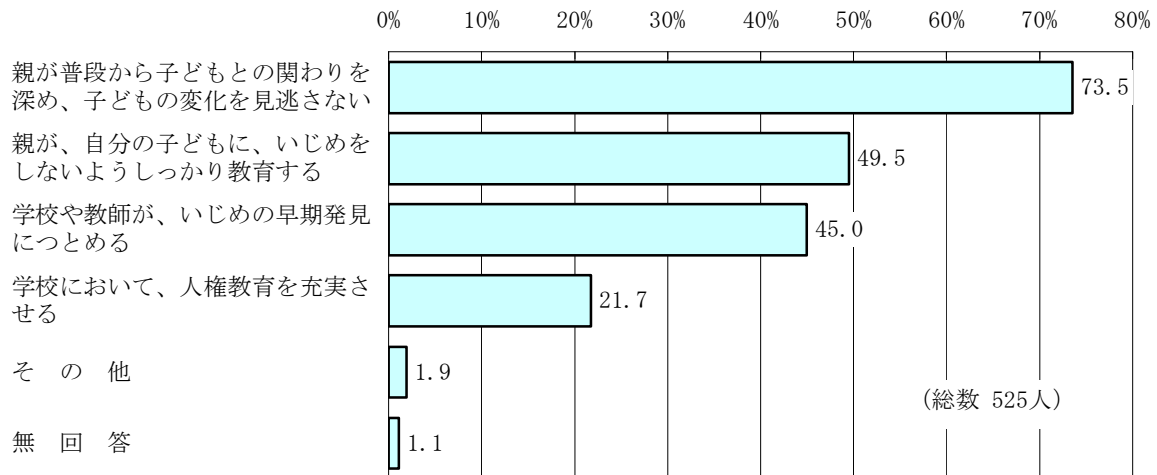
図4-2 子どもを取り巻く環境でよくないと思うもの



3. いじめの未然防止の方法

問 10. いじめをなくすために、「いじめの未然防止」と「起こってしまったいじめの解決」の取組みについて何が重要だと思いますか。それぞれ2つ以内でお答えください。

(1) いじめの未然防止の方法（記入は2つまで）



■ 「親が普段から子どもとの関わりを深め、子どもの変化を見逃さない」が7割超

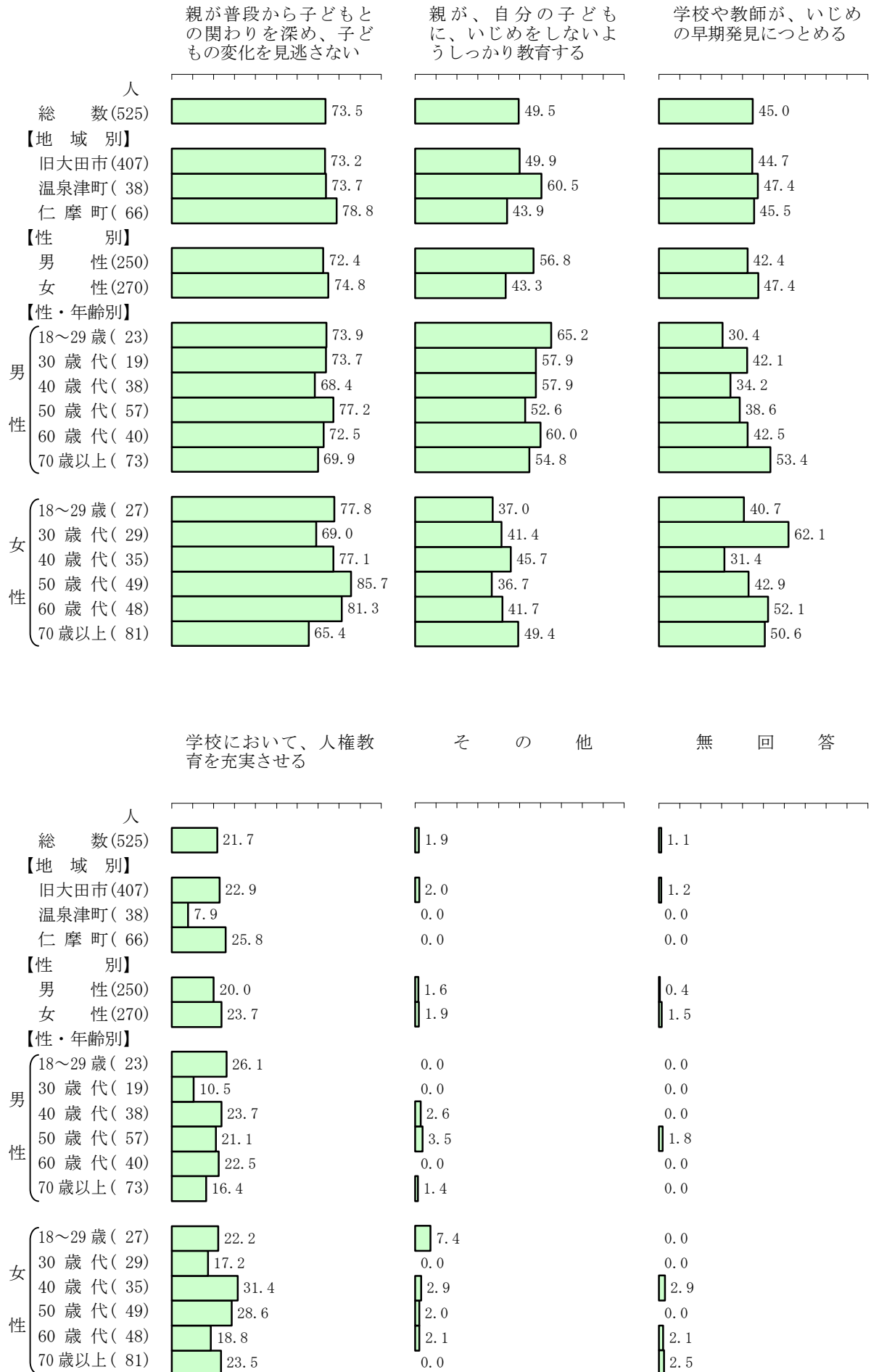
「いじめの未然防止の方法」として重要だと思うものを聞いたところ、「親が普段から子どもとの関わりを深め、子どもの変化を見逃さない」が73.5%（県69.2%）で、以下「親が、自分の子どもに、いじめをしないようしっかり教育する」が49.5%（県38.3%）、「学校や教師が、いじめの早期発見につとめる」が45.0%（県39.5%）、「学校において、人権教育を充実させる」21.7%（県31.8%）となっている。

地域別では、「親が普段から子どもとの関わりを深め、子どもの変化を見逃さない」が全ての地域で7割を超え極端に多いが、温泉津町では「親が、自分の子どもに、いじめをしないようしっかり教育する」が6割を超え多くなっている。また、「学校において、人権教育を充実させる」は、旧大田市（22.9%）仁摩町（25.8%）と2割を超えているが、温泉津町（7.9%）では1割をきっている。

性別にみると、1位は男女とも「親が普段から子どもとの関わりを深め、子どもの変化を見逃さない」であるが、2位は男性では「親が、自分の子どもに、いじめをしないようしっかり教育する」、女性では「学校や教師が、いじめの早期発見につとめる」となっている。

性・年齢別では、「親が普段から子どもとの関わりを深め、子どもの変化を見逃さない」が、女性の50、60歳代で8割を超えている。また、「親が、自分の子どもに、いじめをしないようしっかり教育する」は、男性の29歳以下では65.2%、60歳代では60.0%と多いのに対し、女性では70歳以上の49.4%が最も多くなっており、男女差がある。

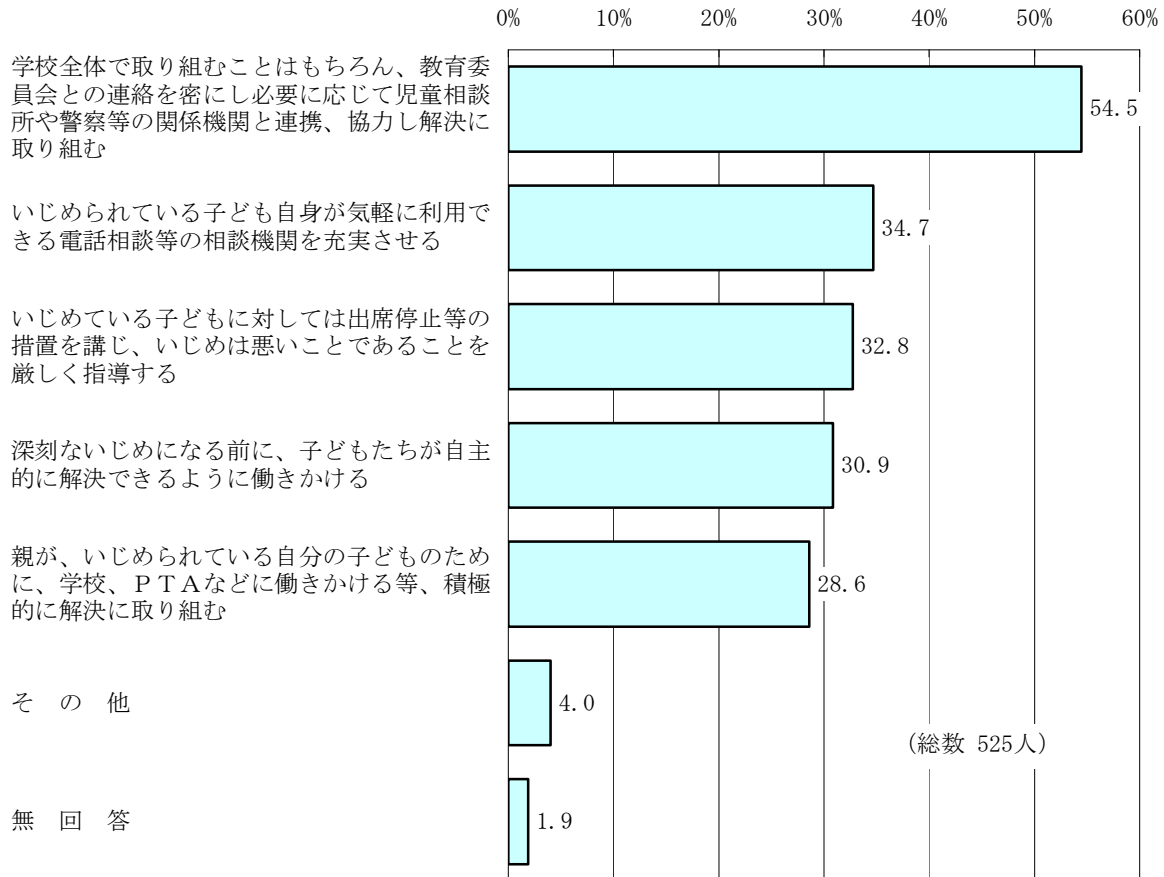
図 4-3 いじめの未然防止の方法



4. 起こってしまったいじめの解決方法

問 10. いじめをなくすために、「いじめの未然防止」と「起こってしまったいじめの解決」の取組
みについて何が重要だと思いますか。それぞれ2つ以内でお答えください。

(2) 起こってしまったいじめの解決の方法(記入は2つまで)



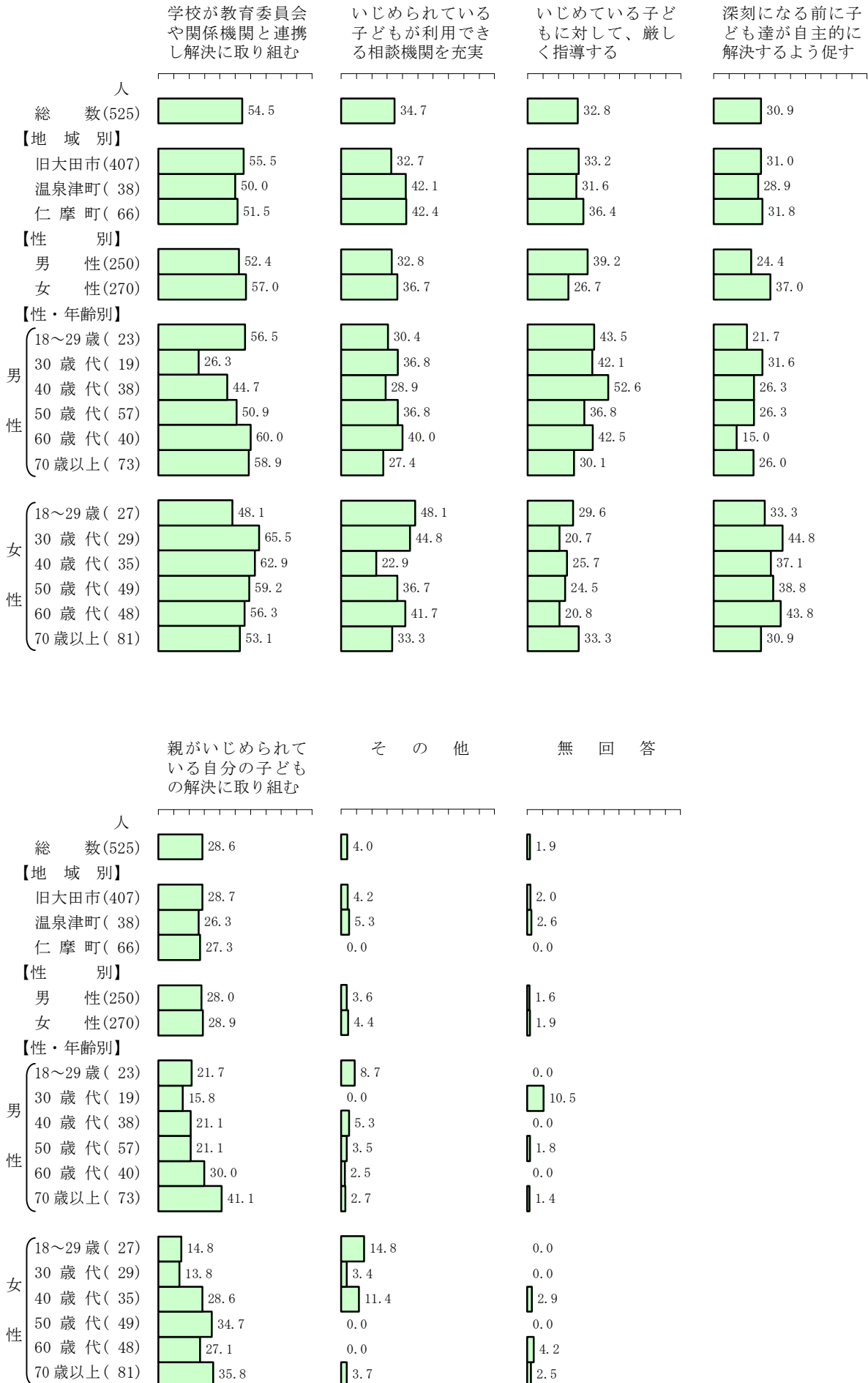
■ 「学校全体で取り組むことはもちろん、教育委員会との連携を密にし必要に応じて児童相談所や警察等の関係機関と連携、協力し解決に取り組む」が5割半

「起こってしまったいじめの解決方法」として重要だと思うものを聞いたところ、「学校全体で取り組むことはもちろん、教育委員会との連携を密にし必要に応じて児童相談所や警察等の関係機関と連携、協力し解決に取り組む」が 54.5%で、以下「いじめられている子ども自身が気軽に利用できる相談機関を充実させる」が 34.7%、「いじている子どもに対しては出席停止等の措置を講じ、いじめは悪いことであることを厳しく指導する」が 32.8%となっている。

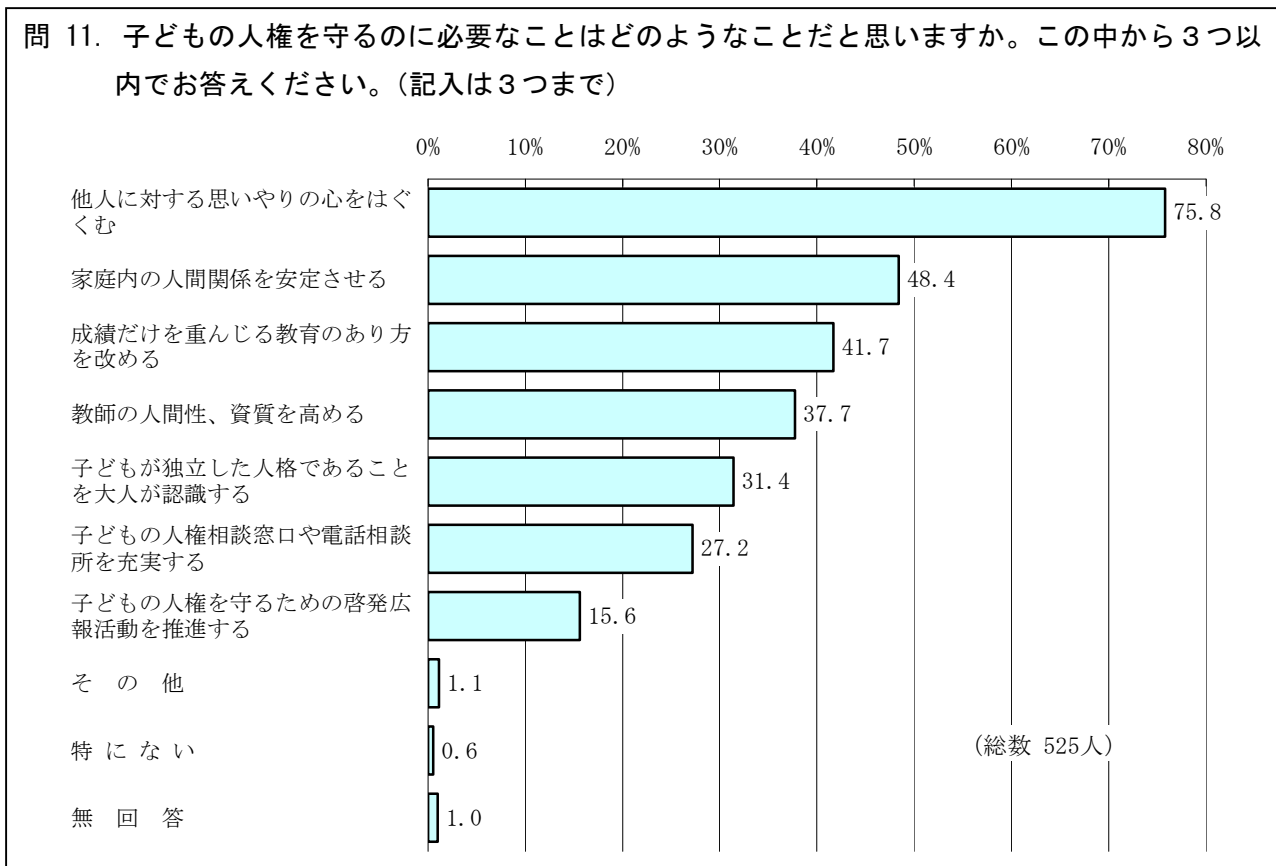
性別にみると、1位は男女とも「学校全体で取り組むことはもちろん、教育委員会との連携を密にし必要に応じて児童相談所や警察等の関係機関と連携、協力し解決に取り組む」であるが、2位は、男性では「いじている子どもに対しては出席停止等の措置を講じ、いじめは悪いことであることを厳しく指導する」、女性では「深刻ないじめになる前に、子どもたちが自主的に解決できるように働きかける」となっている。

性・年齢別でみると、「学校全体で取り組むことはもちろん、教育委員会との連携を密にし必要に応じて児童相談所や警察等の関係機関と連携、協力し解決に取り組む」は、30歳代男性で 26.3%と極端に低く、反対に30歳代女性は 65.5%と最も高くなっており、男女差がある。

図 4-4 起こってしまったいじめの解決方法



5. 子どもの人権を守るために必要なこと



■ 「他人に対する思いやりの心をはぐくむ」が7割半

子どもの人権を守るために必要なこととしては、「他人に対する思いやりの心をはぐくむ」が75.8%（県 52.8%）と多く、以下「家庭内の人間関係を安定させる」48.4%（県 34.2%）、「成績だけを重んじる教育のあり方を改める」41.7%（県 38.5%）、「教師の人間性、資質を高める」37.7%（県 30.6%）となっている。

地域別にみると、温泉津町で「他人に対する思いやりの心をはぐくむ」86.8%、「家庭内の人間関係を安定させる」57.9%が多くなっている。

性別にみると、「家庭内の人間関係を安定させる」は男性よりも女性に多く、「成績だけを重んじる教育のあり方を改める」は女性より男性に多い。

性・年齢別にみると、「他人に対する思いやりの心をはぐくむ」は30歳代男性で94.7%と多くなっている。

子どもの人権に関する調査結果をみると、子どもを取り巻く環境でよくないと思うものについては、親の子育ての姿勢に問題があるとの意見が6割を超えていること、いじめの未然防止の方法では、日頃からの親子間の関係が重要であるとの意見が多く見られたことから、安心して子育てのできる社会になるための環境整備が早急に求められる。また、起こってしまったいじめの解決方法については、様々な関係機関との連携や相談機関の充実が必要であるとの意見が多く、有害な情報の氾濫についての問題も含め、いじめ問題は子どもの人権に関わる重要な問題であるので、各機関との連携はもちろん、安心して相談することができる、子どもの人権が尊重される環境づくりの支援に努めなければならない。

図 4-5 子どもの人権を守るために必要なこと

